

皆さん、体調は大丈夫ですが。今、人類は、新型コロナウイルスという見えない敵と闘っている状態ですが、決して負けないよう日本だけではなく世界が総力をあげて、感染を防ぐ対策を講じています。3月最初から急に休校となり、戸惑いや不安を抱えている人も多いと思います。しかし、普段よりも自由に使える時間がある分、資質を高めていくチャンスと捉えて、今、何ができるのか、何をしないといけないのか皆さん一人一人がしっかりと考えて欲しいと思います。この期間を充実して過ごすのか、ただ何となく過ごすのか、これからの2週間の過ごし方が、新学年での飛躍の鍵を握っていると言えるでしょう。

さて4月の始業式の際、目標を持って、3月の自分の姿をイメージして毎日の生活を送って欲しい、それと、自分自身で限界を決して作らない、つまり「どうせ無理」を決して言わない、という話をしました。1年前の自分自身と今の自分を比べてみてください。少しでも成長した、4月にイメージした自分自身が今ここにあるでしょうか。

本日は、全員が集まった終業式が実施できませんので、皆さんに伝えたいことを記しておきます。これまで何回かお話をしてきたことと重複もしますが、最後まで読んでいただくと有り難いと思っています。

それは挨拶についてです。

人間とは、人と人の間のことだとも言われますが、その間にあるのが心です。そして、その心を繋いでいるのが挨拶です。挨拶の“挨”という字は「開く」、 “拶”は「迫る」という意味があり、挨拶というのは、「心を開いて相手に迫る、近づいていく」という意味になります。

また、“挨”は、「押す」、 “拶”は「押し返す」という意味もあり、挨拶をされたら返しなさいという意味もあります。一方、挨拶の言葉一つ一つにも意味があり、私が理解しているのは概ね次のようなことです（諸説あるようです）

一番よく使う（であろう）「こんにちは」は、もともと、「今日（こんにち）はご機嫌いかがですが」「今日はよいお天気ですね」となど、日中に出会ったときに話しかけられていた言葉の後半が省略され、人に出会ったときの挨拶として定着していきました。同様に、「おはようございます」は、後から来た人が「お早いですね、お元気でなによりです」という意味を込めて「お早うお越しで」と声を掛けたことが始まりです。

また、「お元気ですか」と声をかけられると、『はい、おかげさまで……』と言います。この『おかげさま』は、「あなたの蔭の下で暮らせていただいています」ということです。

食事のときの「いただきます」は「頂戴する」ということです。この“頂”は山のとっぺん（頂き）のことで“戴”はのせること、つまり、人から何かもらったものは頭の上に捧げ持った。それがいただきますです。でも相手から頂戴する物がすべて頭の上まで上げられるようなものとは限りません。60インチの液晶テレビをもらったなら、頭の上に上げるのはほぼ不可能です。そういうときは自分の頭を下げて、相手の方やいただいた物に感謝をしてきたのが“おじぎ”です。

食事の終わり「ごちそうさま」といいます。漢字で書くと「御馳走様」。御馳走とは、「馳」は“はせる”「走」は“走る”で、お客様のために走り回って食材を集め、食事を出してもてなすことで、その労に対する感謝の言葉としての御馳走様（ごちそうさまでした）です。

「すみません」という言葉、謝っているのはなく、もともとは“澄”いう字からきています。“私の心はいままで澄んでいましたのに、あなたにこのようなことをしていただいかき乱されています。どのようにお礼をしたら、もとのように澄むでしょうか”という意味があります。

ところで、このようにいくつかある挨拶の言葉の中で、もっとも美しい言葉は何だと思いませんか。

私は「ありがとう」と「はい」という返事だと思っています。「ありがとう」と言われて嫌な気分になる人はおそらくいないでしょう。また、「はい」も同様です。

人から何かしてもらったときには、「ありがとう」と言いますが、それは心遣いへの感謝の言葉です。人から何かしてもらうことは、めったにない、つまり“有り難い”こと、ここから「有り難い」、「有り難う（ありがとう）」となりました。だから、ありがとうの反対は、当たり前ということになります。

挨拶というのは、例えば、おはようといったのに、相手が返してくれなかった、こんなにしてやったのに、ありがとうの一言もないのか、それなら次からやめてしまおうというものではないのです。挨拶はたとえ相手がしてくれなくても、自分だけは続けていくものです。そうすれば相手から中傷されることはありません。「挨拶もできひんのか！」たいていの悪口はここから始まります。でも自分さえしっかりと挨拶をしていれば、いつか相手が心を開いてくれるでしょう。

日常生活の中で、挨拶が大切であることは、皆さん誰もがわかっていることだと思います。しかし、わかっているのと実行しているのとは、大きな違いがあります。大切なことは、自分たちの身近な日常生活の中からつねに何かを発見する姿勢を持ち続けることです。この姿勢があれば、そこから疑問や好奇心が生まれ、それが新しい発想や創造・工夫につながり、ひいては実行につながっていきます。

皆さんが社会に出たときに、「周囲に人々に可愛がってもらえる人間になって欲しい」と心から願っています。なぜかと言うと、先輩が、周りが、仕事はもちろん仕事以外の色々なことも喜んで教えてくれるようになるからです。そして、そのための一番簡単な方法が挨拶だと私は確信しています。

最後に、2月28日の卒業式の際、卒業生に贈った式辞の一部を掲載して、令和元年度終業式の式辞とします。

皆さんは今、青春真っ直中であり、日々、充実した人生を過ごせるときです。一方、青春は、たいへん気持ちが不安定で、時間を楽しく過ごすだけではなく、自己の可能性を何かに向けてぶつけていく時代であり、人生への最後の準備期間でもあります。一方、あれもしたい、これもしたいと、大きく揺れ動き、本当に自分に必要なものが何であるかがわからないのも青春時代です。しかし、だんだんと自分の生きる方向と「心の支え」を決めていかなければなりません。その支えがどこにあるのか、わからないから苦勞するのです。

人は誰もが、自分が頑張り、周りの人が喜ぶと、その喜んだ顔を見ることで、誰かの役に立っている自分のことを幸せだと感じるようになります。自分が幸せになりたいと思うときこそ、周りの幸せが必要であり、人は相手の気持ちのために一生懸命になっているときに、一番輝けるときなのです。

なぜ、私たちが、お父さん、お母さんをありがたいと思い、父、母という言葉を知ると優しさを感じるのでしょうか。

家族の為に、毎日一生懸命に働き、そして料理やお弁当をつくる・・・そうすることが家族の喜びを支え、「おいしい」と喜んで食べてくれる家族の顔を見ることができ、そして、子どものために全身全霊を注ぎ、成長していく子どもの姿に無上の喜びを感じる。そこには見返りなど何もない、『ただ子どものために』という無償の行為に対して、「ありがたい」と思うのです。これからの人生の中で迷ったら、『どうしたらみんなが喜ぶのだろうか』ということを中心に支えとして行動してください。それは人が存在する証（あかし）であり、最後は必ず自分の幸せになって返ってきます。

「人生はマラソンである。完走しよう。」私（わたくし）が高校卒業の時、恩師からいただいた言葉です。最上のもものは未来にあります。人生という道のりのゴールを目指し、走り、時には休憩しながら、たとえ時間がかかってもいいでしょう。途中で絶対に諦めず、皆さん自身が描いた人生のシナリオを最後まで演じてください。沿道では、多くの方が応援しています。決して一人ではありません。